

白湯頓服食頃血止徐徐而復故

〔俗說正誤夜光珠〕金山の毒氣に中る説

すべて金銀銅山の坑の掘りやうにて風の透ざるには、風ぬき穴を開けざれば、陰氣こもりて燈滅へ入斃る、事あり、これを俗に氣絶るといふ、これも亦右にいふ窖の毒に同じ、又金銀銅山の烟瘴の氣に觸れ胃されて病む者の狀は、身の色黄ばみ、咳嗽いで、痰粘く、漸々に慳れて、三つ輪ぐむやうに成るなり、此症に米の粉にてまるめたる團粉の鹽けなきを好む者は治せず、いまだ病せまらざるうちに、これを治する一方あり、解煙散といふ、方別に白湯に攪たて、日々に用て治すべし、

〔橘黄年譜〕余一日喜多村氏ヲ訪ヒ、佐渡相川醫師瀧浪玄伯ニ會ス、其人ノ話ニ、金銀坑ニ入テ毒ニ中リタルモノヲ山氣ト名ク、其證肺痿虛勞ニ似テ諸藥効ナシ、唯薩州方言ギチト稱スルモノ能コレヲ治ス、此品ヲ伍シテ製シタル煉藥ヲ救工丹金銀ヲ掘ル者大工ト稱ス、後佐渡門人山田某ヨリ、ギチ一塊ヲ贈ル、之ヲ有識ニ質スニ云、具原花譜ニ土ヲ辨ズル條、ギチ一名カラウスツチ、筑前ニテカラムスヲ作ルニ、チバ土ノ代リニ用ユ、チバ土ハ黄堊ニ當レバ、ギチハ白堊ナラント云、

〔醫學天正記〕乾下虫痛。

一則菴姓男虫痛諸葯不効、大風子去油爲丸用之、虫二條吐出而愈、

〔醫學天正記〕坤虫

一二十餘歲之男子、風勞、頭痛汗出、潮熱十餘日不退、盛芳院淨慶治之、至十日ニ熱不退、熱來則頭痛汗出、心下衝上、予爲虫療之、先安蟲丸、次青共貴莎令守甘之類、用七八貼、而熱退汗止、虫定安、

〔療治夜話〕初編下治驗